

【令和4年度農業技術センター研究成果発表会】 課題一覧（アドレス要旨）

1	干しいもにおける加工条件が品質に及ぼす影響 https://youtu.be/NJnLqGayH-c 農業技術センター 企画部 分析・加工係 石原 智
ミニ 要旨	県産干しいもの品質向上のため、加工条件や工程の違いが干しいもの品質に及ぼす影響を検討し、サツマイモを剥皮する厚さ、水さらし時間、蒸煮時間の違いで、糖度や色調に影響が認められた。
2	ウメ「群馬U6号」に適したカリカリ梅加工条件 https://youtu.be/N4tJ-QCske0 農業技術センター 企画部 分析・加工係 五関 香澄
ミニ 要旨	ウメ「群馬U6号」をカリカリ梅に加工するには、核色3のウメ、塩、乳酸Caを混合攪拌する前処理を行うことで外観が良好で品質の良い製品を作ることができる。
3	孺恋村における詳細土壌図の作成 https://youtu.be/f_aHpu4eExQ 農業技術センター 環境部 土壌保全係 山田 浩之
ミニ 要旨	孺恋村の圃場を対象にドローン画像および機械学習を用いて1m単位の土壌図を作成した。本成果を活用した可変施肥など孺恋村におけるスマート農業への展開が期待される。
4	キャベツ栽培後の緑肥作付けは窒素の流失を減らす https://youtu.be/TcUYZpt_TrM 農業技術センター 環境部 環境安全係 本間 素子
ミニ 要旨	孺恋村の畑ではキャベツ栽培後にエンパクなどが広く作付けされており、これら緑肥作物は土壌中の窒素を吸収することで降雨による流失を減らし、環境負荷の低減につながっている。
5	ニラハウス栽培におけるネギネクロバネキノコバエの発生消長及び防除技術の開発 https://youtu.be/1UBHx25pyI0 農業技術センター 環境部 病害虫係 星野 航佑
課題紹介 要旨	ニラハウス栽培で問題のネギネクロバネキノコバエは、2月上旬から成虫が発生し、3~5週間ごとに発生のピークが現れる可能性が示唆された。また、登録薬剤及び熱による防除技術を開発した。
6	トマト施設栽培におけるタバコカスミカメを用いたコナジラミ類の防除効果 https://youtu.be/nEjj_KIhtGs 農業技術センター 園芸部 野菜第一係 須藤 美貴
ミニ 要旨	トマト施設栽培におけるバンカー植物を併用した防除効果を検証したところ、タバコカスミカメ（土着天敵）の導入によりコナジラミ類の増加が抑制され、防除効果が認められた。
7	低コスト・省力化が可能なブドウY字樹形の開発 https://youtu.be/I0L2gz5LkxY 農業技術センター 園芸部 果樹係 星野 智昭
ミニ 要旨	ブドウ栽培では、棚資材コストや作業時間の約56%を占める着果管理及び新梢管理が、栽培面積拡大を抑制しているため、低コストで新梢誘引や袋掛けの省力化が可能なブドウY字樹形を開発した。
8	ウメ「白加賀」の陥没症対策 https://youtu.be/HrkzerxtWBY 農業技術センター 園芸部 果樹係 森田 碧
ミニ 要旨	「白加賀」で問題の陥没症果の発生は、胚固完了期は収穫しない、気温が30℃を超える高温日は午前中に収穫を終了し、50年生以上の老木は植え替えることで軽減できることが示唆された。
9	抑制キュウリにおける株間（栽植密度）の違いが収量・作業時間・燃料効率に及ぼす影響 https://youtu.be/kbaW5IQUbQ4 農業技術センター 東部地域研究センター 長浜 ゆり
ミニ 要旨	抑制キュウリにおいて株間55cm（栽植密度889株/10a）と株間45cm（栽植密度1,111株/10a）を比較すると、可販収量、粗収益、燃料効率は株間45cmで優れ、労働生産性は株間55cmで優れる。
10	キャベツピシウム腐敗病の防除技術の確立 https://youtu.be/4HQuas4o6SI 農業技術センター 高冷地野菜研究センター 番場 雅人
ミニ 要旨	高冷地のキャベツ生産で問題のピシウム腐敗病対策として、品種ごとの耐病性を明らかにし、薬剤の適切な散布時期を検討したところ、結球前及び結球中期の防除の方が高い効果が認められた。